

院生研究活動状況一覧

2020年1月1日から2020年12月31日までの間に発表されたもので、
本人より申告されたもののみを記載した。

《教育基礎学専攻》

青柳翔也（日本教育史）

〈学会発表〉

- ・青柳翔也「敗戦直後の文部省における音楽教育の民主化構想—教科課程の編成をめぐる諸井三郎とCIEの折衝過程に注目して—」, 教育史学会第64回大会, オンライン開催, 2020年9月27日.

石川敬史（生涯学習・社会教育学）

〈論文〉

- ・中岡貴裕, 石川敬史「和光市における移動図書館の歩み：インタビュー調査中間報告」『和光市デジタルミュージアム紀要』(和光市教育委員会)6号, 2020年3月, pp.1-12.
- ・奥泉和久, 小黒浩司, 石川敬史「戦後公共図書館建築の歴史1：西川馨氏に聞く1960～70年代を中心に」『図書館界』(日本図書館研究会)72巻2号, 2020年7月, pp. 54-59.

〈学会発表〉

- ・石川敬史, 中岡貴裕「オーラルヒストリーの手法を用いた地域図書館史研究の課題と展望：埼玉県和光市における移動図書館史調査から」日本教育情報学会第36回年会, 札幌大学（『年会論文集』掲載発表）, 2020年8月22日.
- ・石川敬史, 渡部哲成, 阿加井愛香「産学連携による読書手帳の開発プロセス：企業・学生・教員との学びを中心に」日本教育情報学会第36回年会, 札幌大学（『年会論文集』掲載発表）, 2020年8月23日.

〈その他〉

- ・安達一寿, 石川敬史「これからの教育の変革に対応する学会活動への期待：これまでの学会誌や年会の分析を通して」『教育情報研究』(日本教育情報学会)35巻3号, 2020年3月, pp. 15-22.
- ・石川敬史「本を届ける知恵と工夫：移動図書館（自動車文庫）を中心に」『としょかん』（としょかん文庫・友の会）153号, p. 8.
- ・石川敬史「書評 渡辺幸倫編著『多文化社会の社会教育—公民館・図書館・博物館がつくる「安心の居場所」』 明石書店」『基礎教育保障学研究』(基礎教育保障学会)4号, 2020年8月, pp. 200-202.
- ・石川敬史「ともに活かし継承するために：資料の整理と利用の経験から」『図書館文化史研究』(日本図書館文化史研究会)37号, 2020年10月, pp. 17-29.

江幡知佳（教育制度学）

〈論文〉

- ・江幡知佳「日本の大学における国際バカロレア入試の意図と葛藤—『旧来型学力重視の選抜』—『新しい能力重視の選抜』という視角から—」『比較教育学研究』(日本比較教育学会) 第60号,

2020 年 1 月, 2-24.

- ・江幡知佳「米国における国際バカロレア教育効果研究の系譜—ディプロマ・プログラムに焦点を当てて—」『国際バカロレア教育研究』（日本国際バカロレア教育学会）第 4 巻, 2020 年 9 月, 15-21.
- ・江幡知佳「高大接続制度としての国際バカロレア（IB）の汎用性に関する実証的研究—日本の大学に在学している IB 修了生の語りから—」『教育制度学研究』（日本教育制度学会）第 27 号, 2020 年 10 月, 94-113.

〈総説・科研報告書等〉

- ・田中正弘, 川越明日香, 長創一朗, 江幡知佳, 高野雅暉, 中原理沙, 野村祐介「大学教育機構等の設置状況と今後の課題」川島啓二（編）『大学における教育改善等のための組織体制のあり方—12 年間の変化と組織体制の課題—』（広島大学高等教育研究開発センター）2020 年 3 月, 総 10 頁, 45-54.

〈学会発表〉

- ・江幡知佳「日本の大学における国際バカロレア修了生の経験」日本高等教育学会第 23 回大会, 東京家政大学板橋キャンパス（東京都板橋区）, 2020 年 5 月 31 日（新型コロナウイルス感染症の影響で要旨集録の発行のみ）.

〈その他 受賞など〉

- ・江幡知佳「筑波大学大学院人間総合科学研究科 人間総合科学研究科長賞」, 2020 年 3 月.

小山田建太（教育社会学／共生教育学）

〈総説・科研報告書等〉

- ・小山田建太「事業変遷下における地域若者サポートステーション事業の支援意義に関する研究」『公益財団法人社会安全研究財団 2019 年度若手研究助成研究報告書』2020 年 11 月, pp. 1-15.

〈学会発表〉

- ・小山田建太「準市場における事業受託団体の変質とその課題—地域若者サポートステーション事業に係る定量的分析—」日本教育学会第 79 回大会, オンライン開催, 2020 年 8 月.

島埜内恵（教育哲学）

〈編著書〉

- ・島埜内恵「第 4 章 特別活動と教科教育」吉田 武男監修・編著, 京免 徹雄編著『MINERVA はじめて学ぶ教職 特別活動』2020 年 11 月, ミネルヴァ書房, 50-63 ページ, 総 242 ページ.

〈論文〉

- ・島埜内恵「フランスにおける『出身言語・文化教育（ELCO）』プログラムの実態—二国間協定締結国に焦点をあてて—」『比較教育学研究』（東信堂）第 60 号, 2020 年 1 月, 47-68 ページ.
- ・島埜内 恵「『外国につながる子ども』を対象としたボランティア活動への参加—浜松学院大生による学習支援」『浜松学院大学研究論集』第 16 号, 2020 年 3 月, 203-212 ページ.

西村 恵（生涯学習・社会教育学）

〈学会発表〉

- ・西村 恵「前島密の功績における近代国語教育発展に関する一考察 —「漢字御廃止之議」及び『鴻爪痕』等に注目して—」教育史学会 第 64 回大会, 武蔵野美術大学（WEB 開催）
2020 年 9 月 26 日（土）～ 27 日（日）

〈編著書〉

- ・西村 恵著『特別支援教育概論 ―特別の教育的ニーズを必要とする子どもの理解とその支援』2020.11.6, 銀河書籍, pp. 178.
- ・西村 恵著『領域「健康 + 1 領域「自立活動 ―幼児の健康と家庭教育支援』2020.11.26, 銀河書籍, pp. 134.

橋田慈子（生涯学習・社会教育学）

〈論文〉

- ・橋田慈子「当事者運動に応答する自立支援の形成過程 ―知的障害のある人びとの親子関係の視点から―」『教育学研究』第 87 巻第 3 号, 2020 年 9 月, pp. 26-38, 査読あり.
- ・丹間康仁, 竹井沙織, 小宅優美, 橋田慈子「〈研究ノート〉学校統廃合を経験した山間へき地出身者の地域認識の変容 ―中学卒業から高校卒業までの継続的インタビューを手掛かりに―」『日本学習社会学会年報』第 16 号, 2020 年 9 月, pp. 81-90, 査読あり.

〈総説・科研報告書等〉

- ・橋田慈子, 頼常優, 米田結実, 曾根大志「秋田県鹿角市における社会教育調査報告」『茗溪社会教育研究』第 11 号, 2020 年 5 月, pp. 54-62.

〈学会発表〉

- ・橋田慈子「障害のある人びとの地域生活を支える公民館実践の創出過程」日本社会教育学会 第 67 回研究大会, オンライン開催, 2020 年 9 月 13 日.

蓮池重代（日本教育史）

〈論文〉

- ・蓮池重代「第二次朝鮮教育令前後における初等教員試験の動向と実態―植民地朝鮮で発行された新聞記事の分析を中心にして―」『筑波大学教育学系論集』第 45 巻第 1 号, 2020 年 10 月, 29-42 頁.

〈学会発表〉

- ・蓮池重代「植民地朝鮮の初等教員試験の実態―小学校及普通学校教員第三種試験をめぐる朝鮮人教員の動向に注目して―」, 教育史学会第 64 回大会, オンライン開催, 2020 年 9 月 27 日.

《学校教育学専攻》

松尾智晶（キャリア教育学）

〈編著書〉

- ・松尾智晶「企業におけるキャリアカウンセリング」日本キャリア教育学会編著『新版 キャリア教育概説』2020 年 9 月, 初版, 東洋館出版社, 272 ページ, pp. 127-130.

〈論文〉

- ・中沢正江・松本翔伍・松尾智晶・伊吹勇亮「学生アスリート向けインターンシッププログラムの学習効果」『高等教育フォーラム』（京都産業大学）第 10 号, 2020 年 3 月 31 日, pp. 1-8.
- ・中沢正江・松尾智晶「キャリア・アダプタビリティ倫理に基づく学生アスリート向けインターンシップ構築ガイドライン」『文理シナジー』第 24 巻第 2 号, 2020 年 10 月, pp. 217-224.

〈総説・科研報告書等〉

- ・三保紀裕・松尾智晶「インターンシップの予期的社会化に係る効果と大学教育における有効性に

関する研究」研究代表者三保紀裕・調査研究『独立行政法人日本学生支援機構「学生支援の推進に資する調査研究事業（研究助成）」成果報告書』2020年3月，報告書はウェブ掲載。

(<https://www.jasso.go.jp/about/statistics/jasso-research/2019.html>)

〈学会発表〉

- ・松尾智晶・松本翔伍・伊吹勇亮「学生アスリート向けインターンシッププログラムがキャリア意識に与える影響 ―キャリア意識の発達に関する効果測定テスト（CAVT）を用いた受講生調査から―」大学教育学会 第42回大会，九州大学（オンライン），2020年6月6日・7日。
- ・松尾智晶・三保紀裕・寺田盛紀「インターンシップの教育効果に関する研究 ―プロアクティブ行動と進路不決断に着目して―」日本キャリア教育学会第42回大会，筑波大学（オンライン），2020年10月10日・11日。
- ・Norihito Miho, Chiaki Matsuo, Moriki Terada, “*Vocational Behavior of Japanese Newcomer and Internship Experience*”, The 16th AASVET (The Asian Academic Society for Vocational Education and Training), Nagoya University (Online), 2020年11月14日・15日(※)。
- ・中沢正江・松本翔伍・松尾智晶・伊吹勇亮「学生アスリート向けインターンシップ改善効果分析」日本インターンシップ学会第21回大会，桜美林大学（オンライン），2020年11月22日。

浅井哲司（人文科教育学）

〈論文〉

- ・浅井哲司「「話すこと・聞くこと」と「読むこと」における話し合い指導を相互に関連させる授業の成果と課題―中学3年間の実践を通して―」『人文科教育研究』（人文科教育学会）第47号，2020年12月，pp. 61-80。

大脇和志（社会科教育学）

〈論文〉

- ・大脇和志「子どもの政治意識の形成過程からみる小学校社会科政治教育の検討課題―質問紙調査に基づく政治的社会化研究の再検討を通して―」『公民教育研究』（日本公民教育学会），第27号，2020年3月，pp. 1-14。

〈総説・科研報告書等〉

- ・大脇和志「黒島小中学校の義務教育学校化の特質―施設一体型校舎の新築と「あり方検討委員会」の協議にみる―」『地域と教育 第19号 長崎県佐世保市黒島』（筑波大学博士課程人間総合科学研究科教育学専攻「社会科教育学特講」調査報告，井田仁康），2020年9月，96p., pp. 17-38。

〈学会発表〉

- ・大脇和志「日本の小学生による「議論に開かれた教室風土（open classroom climate）」の認識―IEAの国際比較調査を改良した項目の計量分析―」第69回全国社会科教育学会・第37回鳴門社会科教育学会合同全国研究大会，ウェブサイト開催（鳴門教育大学），2020年10月24日。

勘米良祐太（人文科教育学）

〈論文〉

- ・勘米良祐太「明治後期旧制中学校における文法と作文との関連―芳賀矢一『中等教科明治文典』の分析を通して―」『日本語と日本文学』（筑波大学日本語日本文学会）66号，2020年8月，pp. 113-128。

金ボイエ（人文科教育学）

〈論文〉

- ・金ボイエ「グアンの教授法を借用した山口喜一郎の日本語教授法—台湾の実践から韓国の実践まで—」『日本語と日本文学』，筑波大学日本語日本文学学会，2020.08，pp. 39-54.

〈発表〉

- ・金ボイエ「芦田恵之助の教授観の再評価—3・1独立運動以降の教育方針に着目して—」，2020年度冬季国際学術大会，韓国語日文学会，2020/12/19.

早瀬博典（社会科教育学）

〈論文〉

- ・早瀬博典「アメリカ社会科における「インクルージョン」の授業方略—T. Lintner の「ビッグアイデア」を分析して—」『社会科教育研究』第140号，2020年9月，27-39頁.
- ・堀田諭・早瀬博典・木下祥一「社会科教師は現代的な諸課題にいかに取り組むことができるのか—AP世界史・人文地理デジタル教材『COVID-19』の分析を手がかりに—」『埼玉学園大学紀要人間学部篇』第20号，2020年12月，201-214頁.

〈学会発表〉

- ・早瀬博典「アメリカ社会科における「インクルージョン」の展開—NCSSの取り組みを中心に—」日本社会科教育学会第70回全国研究大会・筑波大会，筑波大学（ウェブサイト開催），2020年11月28-29日.
- ・堀田諭・早瀬博典・木下祥一「社会科教師は現代的な諸課題にいかに取り組むことができるのか—AP世界史・人文地理デジタル教材『COVID-19』の分析を手がかりに—」，日本教科教育学会第46回全国大会・福岡大会，福岡教育大学（ウェブサイト開催），2020年9月12日.

〈その他〉

- ・早瀬博典「大会参加報告」『全国社会科教育学会会報』第24号，2020年3月，4頁.

細田幸希（数学教育学）

〈学会発表〉

- ・細田幸希「標本調査の単位における統計と確率を関連付けた統計的探究の教材開発」，『日本科学教育学会第44回年会論文集』（pp. 603-606）. 誌上発表，2020年8月.
- ・細田幸希「中学校数学科における不確実性の評価を取り入れた統計的探究の意義」，『日本数学教育学会 第53回秋期研究大会発表集録（口頭発表の部）』（pp. 321-324）. 高知大学（オンライン開催），2020年11月.

〈商業雑誌〉

- ・細田幸希「小学校算数科の統計指導における統計的問題の質向上を目的としたプロジェクト（海外の算数教育情報）」，『新しい算数研究1月号（通巻600号）』，2020年12月，pp. 36-37.

村田翔吾（数学教育学）

〈論文〉

- ・村田翔吾「数学的探究における定義活動の方法に関する研究：規範的側面に焦点を当てて」，『日本数学教育学会誌 数学教育学論究』，第114号，2020年12月，pp. 19-38.

〈学会発表〉

- ・村田翔吾「数学的探究における定義活動を促進するための教材の要件」，『日本科学教育学会 第

44 回年会論文集』(pp. 569-572). 誌上発表, 2020 年 8 月.

- ・村田翔吾, 「数学的探究における定義活動を促進するための教材の開発」, 『日本数学教育学会 第 53 回秋期研究大会発表集録 (論文発表の部)』(pp. 57-64). 高知大学 (オンライン), 2020 年 11 月.

〈商業雑誌〉

- ・村田翔吾, 「小学校算数科における『定義する活動』の学習指導 (海外の算数教育情報)」, 『新しい算数研究 9 月号 (通巻 596 号)』, 2020 年 8 月, pp. 34-35.

山本高広 (理科教育学)

〈論文〉

- ・山本高広・熊野善介「生物教育における創造性を高めるための資質・能力の育成—ヘックスバグ [ナノナイトロ] を用いた教材開発と実践—」『愛知教育大学大学院・静岡大学大学院教育学研究科共同教科開発学専攻紀要教科開発学論集』8 号, 2020 年 3 月, 134-144 頁.

〈総説・科研報告書等〉

- ・山本高広「2019 年度 静岡 STEM アカデミー 小学生・中学生を対象とした生命倫理の導入」熊野善介・JST 令和元年度ジュニアドクター育成塾事業『静岡 STEM アカデミー報告書』(静岡大学) 2020 年 3 月, 総ページ数: 215 頁, 掲載ページ: 117-128 頁.

〈学会発表〉

- ・熊野善介・増田俊彦・青木克顕・郡司賀透・山本高広「『静岡 STEM アカデミー』における 1 年目と 2 年目の相違点と改善点とその成果」日本理科教育学会東海支部大会, 岐阜聖徳学園大学 (オンライン開催), 2020 年 11 月 28 日.
- ・山本高広「香港における STEM 教育の現状と STEM 人材育成に求められる資質・能力」日本科学教育学会第 44 回年会, 兵庫教育大学 (オンライン開催, 誌上発表), 2020 年 8 月.
- ・神谷昭吾・山本高広「科学的な根拠をもった判断力の育成—気象予報士と行う気象予報—」日本理科教育学会第 70 回全国大会, 岡山大学 (オンライン開催, 誌上発表), 2020 年 8 月.

《ヒューマン・ケア科学専攻 共生教育学分野》

市川定子

〈編著書〉

- ・市川定子「事業化・施策化」宮崎美砂子・北山三津子・春山早苗ら『最新公衆衛生看護学総論』2020.1, 第 3 版 2020 年版, 日本看護協会出版会, 総 400 ページ, 執筆 9 ページ.

〈論文〉

- ・市川定子・庄司一子「学校における児童虐待への対応について—現状と課題—」『共生教育学研究』, 第 7 巻, 2020 年 3 月, 35-47 ページ

〈学会発表〉

- ・市川定子「市町村保健師における児童虐待リスク要支援事例支援の困難さ」第 9 回 日本公衆衛生看護学会 学術集会, オンライン開催, 2020 年 12 月 25 日～2021 年 1 月 24 日

津多成輔 (共生教育学／教育社会学)

〈論文〉

- ・津多成輔, 「地域移動とマイノリティに対する意識の関連」岡本智周編『共生と分断の社会意識—2019 年調査報告—』早稲田大学共生教育社会学研究室, pp. 51-56, 2020 年 12 月.

- ・池田匡史, 徳島祐彌, 津多成輔, 坂口真康, 泉村靖治, 阪上弘彬, 山本真也, 「中堅教員に求められる資質・能力の再検討とリフレクション研修の構想—社会的文脈を踏まえた視点から—」『兵庫教育大学研究紀要』57, pp. 95-108, 2020 年 9 月.
- ・SAKAGUCHI Masayasu, TSUDA Seisuke, IKEDA Masafumi, YAMAMOTO Shinya, TOKUSHIMA Yuya, SAKAUE Hiroaki, IZUMIMURA Yasuji, A Study of the Development and Implementation of the Graduate-Level Teacher Training: In Collaboration with the Prefectural Programme, PROCEEDINGS OF THE 8TH JAPAN-CHINA TEACHER EDUCATION CONFERENCE, pp. 1-14, 2020 年 3 月.

〈総説・科研報告書等〉

- ・津多成輔, 「教職大学院教科領域の教育の現況及び質保証の仕組みに関する包括的調査（第 1 次調査）の分析と考察」『教職大学院教科教育コアカリキュラム及びその質保証に関する調査研究—教職課程コアカリキュラムと接続した教科領域導入モデルの作成に向けて—報告書』, pp. 3-14, 2020 年 3 月.

《博士後期課程教育学学位プログラム》

奥田修史（学校経営学）

〈学会発表〉

- ・奥田修史「アメリカにおける初等教育教員養成の成立過程—1920 年代の「教育記録（record keeping）」の受容に着目して—」日本教育学会第 79 回大会, 神戸大学（オンライン）, 2020 年 8 月.
- ・奥田修史「1920 年代アメリカの初等教育教員養成改革—議論とカリキュラムモデルの分析—」日本教師教育学会第 30 回大会, 明治大学（オンライン）, 2020 年 9 月.

康 孝民（数学教育学）

〈学会発表〉

- ・康 孝民「学校数学における授業改善のための教師の活動の特質—Community of Practice 論に着目して—」. 『日本数学教育学会 第 53 回秋期研究大会集録集（口頭発表の部）』(pp. 173-176), 高知大学（オンライン発表）, 2020 年 11 月.

〈商業雑誌〉

- ・康 孝民「韓国の小学校算数科における統計の学習内容と実践」. 『新しい算数研究 12 月号（通巻 599 号）』(pp. 36-37), 2020 年 11 月.

木下 豪（学校経営学）

〈学会発表〉

- ・木下 豪「現代の地方小都市における学校と地域の連携施策と地域住民の認識実態」日本教育経営学会, オンライン開催, 2020 年 12 月 19 日.

木村百合子（数学教育学）

〈学会発表〉

- ・木村百合子・日野圭子「ジェンダーについての算数・数学教師の認識を捉える調査の作成：外国の教師用テキスト等を参照して」. 『日本科学教育学会年会論文集 44』(pp. 167-170), 誌上発表, 2020 年 8 月.

- ・木村百合子「数学科授業における女子の態度の形成についての一考察」.『日本数学教育学会 第53回秋期研究大会集録集（口頭発表の部）』（pp. 381-384），高知大学（オンライン発表），2020年11月.

〈商業雑誌〉

- ・木村百合子「小学校算数科における男女の問題解決方略の傾向」.『新しい算数研究 11月号（通巻598号）』（pp. 38-39），2020年10月.

藤田駿介（キャリア教育学）

〈学会発表〉

- ・藤田駿介「ドイツ連邦ギムナジウムにおけるキャリア教育ニーズの高まりと対応—バーデン＝ヴュルテンベルク州の前期中等教育段階の動向を中心に—」日本キャリア教育学会第42回研究大会，筑波大学（オンライン），2020年10月.

〈その他〉

- ・藤田駿介「ドイツ前期中等教育段階ギムナジウムにおける職業・進学指導の実施基盤の検討—バーデン＝ヴュルテンベルク州のBOGYを事例として—」日本キャリア教育学会オンライン特別企画「これからのキャリア教育研究・実践を考える」，2020年10月.
- ・藤田駿介「ドイツ連邦前期中等教育段階ギムナジウムの実践を通して見た中学校のキャリア教育における職業の位置づけ」日本職業教育学会若手研究者部会オンライン座談会「職業教育学への視座—若手研究者からみた職業教育研究の検討課題と可能性—」，2020年10月.

毛 月（学校経営学）

〈学会発表〉

- 毛 月「中国貧困地域の公立学校における「校本教研」の展開と課題に関する研究—事例分析を中心に—」日本教師教育学会第30回大会，明治大学（オンライン），2020年9月.